

政策評価シート(令和4年度実績評価)

◎政策の基本情報

政策No	0103	政策名	商業の振興	政策主管課	商工労政課	課長名	久保田 謙一
政策の目指す姿		商業機能を充実し、人とモノの流れを活発にしています					
政策の方針							
人口減少により、市内消費の縮小も懸念される中、商店街など市内の商業を活性化させていくためには、消費者（人）と商品（モノ）の流れが活発になるよう商業機能を充実させる必要があります。 そのために、消費者ニーズに対応した多様な商業形態の形成を図るとともに、既存の商店街が、歴史と景観が調和した魅力ある商店街として再生できるよう支援します。							

1 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	数値区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
日常の買い物を市内で行う市民の割合	市民の市内での買い物の状況を示す指標。現状の高い水準の維持を目指す。	出展：花巻市（市民アンケート） 問：「買い物する場所」 「あなたは、日常の買い物を主にどこでしていますか？」 『市内』と答えた人を集計	%	目標値	90.00	90.00	90.00	90.00	90.20	
				実績値	91.10	92.30	92.30	91.60		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

2 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	各世代において、9割前後の市民が日常の買い物を「市内」で行うと回答している。実績値は、令和3年度よりもわずかに下回ったものの、ここ数年は目標値を達成し続けている。これは、市内には大規模小売店も十分にあり、人口が集中する地域では日常的に使用する品物の買い物には不自由していないことが要因と考えられる。

3 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
A①	日常の買い物を市内でする人が91.6%であり、市内での買い物に満足している（「満足」と「どちらかといえば満足」）割合も約58.9%となっていることから、総合的な評価としては順調であると考えられる。 市内に十分に大規模小売店舗もあり、ドラッグストア等の新規出店も多く市内での消費活動は活発に行われている。一方、地元の小売店の減少、商店街構成員の減少、後継者不足など商店街組合の課題については、一部でリノベーションまちづくりによる効果はあるものの全体として大きな課題となっている。

5 政策を構成する施策一覧

1	施策名	商業形態の多様化			
	施策の成果指標の達成状況	H31 A	R02 B	R03 A	R04 B
	課題	<p>・大規模小売店舗やドラッグストアが増加し、地域の小売店が減少する中でインターネット販売やキャッシュレス決済も普及しており、消費対象となる店舗や支払方法の形態が多様化していることから、地域性や各世代、特に20代～30代の満足度を向上させる対応が必要である。</p>			
	今後の方向性	<p>・若い世代に対しては、地域の特色と魅力を備えている地域内にある小売店などの魅力発信を図りながら、市内での買い物に対する満足度割合の増加を図る。また、小売店の減少に伴い、買い物が困難である地域への支援は必要であることから、民間による移動販売の周知及び情報提供を行う。</p>			

2	施策名	商店街の再生			
	施策の成果指標の達成状況	H31 D	R02 C	R03 D	R04 A
	課題	<p>・地元の魅力への関心を高め、花巻のみならず大迫・石鳥谷・東和の各商店街の新規創業支援や民間主導のリノベーションまちづくりの促進に向けた支援が必要である。また商店街では構成員の高齢化・減少が課題となっており、新規事業者の呼び込み、事業承継支援が必要となっている。</p> <p>・大迫地域においては、遠野街道の宿場町として栄え当時の面影を残した貴重な建物の有効活用と古いまちなみを活かし、リノベーションや景観形成を促進し、中心市街地商店街の活性化に向けた支援が必要である。</p> <p>・石鳥谷地域においては、中心商店街が基軸となり、地域の交流や賑わいを創るとともに地域振興の活性化を図ることが必要となっている。</p> <p>・東和地域においては、土沢商店街の賑わいづくりの創出を図るため「アートのまち365」をテーマとした特色ある各種イベントや情報発信の強化が必要となっている。</p>			
	今後の方向性	<p>・花巻商工会議所や家守事業者と連携し、各地域において新規創業希望者の出店需要の高い物件とのマッチングを図るとともに、中央広場等の公共空間の利活用を支援しまちなかへの事業者の呼び込みを図る。</p> <p>・大迫地域においては、花巻商工会議所大迫支部等関係団体で構成された大迫地域まちなみ整備検討委員会が策定するまちなみ整備計画の議論を深化させ、建物の改修やイベント等を行い中心市街地商店街の活性化を図る。</p> <p>・石鳥谷地域においては、「まちの駅いしどりや酒蔵交流館」を中心商店街拠点施設として活用し、様々なイベントや情報発信を行い、地域の交流や賑わいを創るとともに地域振興の活性化を図る。</p> <p>・東和地域においては、「アートのまち365」をテーマとした「まちづくり」を基本とし、イベント期間中だけでなく、年間を通してアートを感じる商店街を目指し、賑わいづくりを創出するために継続して情報発信する。</p>			